

特定非営利活動法人 空援隊

令和4年度(2022年度) 事業報告書

1. 活動概要

新型コロナウィルス感染拡大の影響で2020年度から2年間活動できなかったが、本年度は本格的に活動を再開した。沖縄で初めて発掘収容を実施し、全5回の発掘収容に、のべ869人のボランティアが参加した。また、同じ場所から日米の認識票が見つかり、それらを両遺族に返還する等、「前例のない」活動となつた。発掘収容以外にも、事前調整や現地協力者との打合せ等で沖縄に通い、今後沖縄を中心に活動することになった。

＜過去3年間の活動実績＞

	2020年度	2021年度	2022年度
調査実施回数	2回 (視察のみ)	3回 (内、視察2回)	9回 (内、発掘収容5回)
調査日数	8日間	17日間	94日間
送還数・ 見つけた遺骨	【見つけた遺骨】 なし(調査活動なし)	【見つけた遺骨】 なし	【見つけた遺骨】 3箱と3袋

《1年間の主な活動》 (2022年度)

	日本国内	海外
4月	・第140回調査(沖縄本島) ・第141回調査(沖縄本島) (第1回第62師団野戦病院壕遺骨収容)	
6月	・第142回調査(沖縄本島) ・通常総会、年度報告会(東京)	
7月	第143回調査(沖縄本島) (第2回 第62師団野戦病院壕遺骨収容)	
8月		第144回調査(サイパン)
9月	第145回調査(沖縄本島) (第3回 62師団野戦病院壕遺骨収容)	
10月	第146回調査(沖縄本島) (第1回旧海軍司令部壕遺骨収容)	
11月	報告会(東京)	
2023年1月	第147回調査(沖縄本島) (第2回旧海軍司令部壕遺骨収容)	
2月	第148回調査(沖縄本島)	

※調査の概要は別紙を参照

2. 国内での活動

○沖縄

日本に残る未収容のアメリカ兵調査のため、2018から沖縄で事前調査を続けてきた（4年間のうち2020年と2021年は新型コロナウィルス流行で活動を自粛した）。資料や地元の人達からの情報、現地踏査を重ね、今年度の4月から発掘収容を始めた。

場所は、陸軍第62師団野戦病院壕だったと言われる壕（糸満市）で、アメリカ兵2人が死亡し、遺体は収容されなかった。また日本人も、軍人・民間人とも多数亡くなったと言っていた。未収容のアメリカ兵探しを目的としたため、在沖アメリカ兵や軍関係者らと一緒に活動する「日米合同」で3回調査を行った（4月、7月、9月）。遺骨や遺留品等日本人と思われるものが多数見つかった。この他、9月には、この壕で死亡した John QUINN 海兵隊員の認識票が見つかり、NYから訪れた甥に認識票を返還した。沖縄で長年遺骨収容に携わってきた関係者から、日本の遺骨収容の現場で、アメリカ兵の認識票が見つかった例がないと言われ、地元メディアも報道した。12月には、同壕で現地協力者らが日本人の認識票を見つけ、3月に千葉県袖ヶ浦市の遺族に認識票を返還した。氏名が刻まれている日本人の認識票は非常に珍しい。同じ壕から日米の認識票が見つかり、それが両遺族に返還された例はなく、前例がないことが続いた。（3回の調査では終わらず、2023年4月に最終調査を行った）

また、旧海軍司令部壕においても発掘収容を2回行った。ここは観光地化されている戦跡で、公開箇所以外に未公開箇所があることを現地協力者から聞いた。9月に試掘を行うと、手榴弾や歯等が2～3時間の間に見つかった。そこで10月からこの場所でも調査を始めた。1回目の調査では観光通路のすぐそばから大腿骨等、段ボール1箱分の遺骨が見つかった。また、1回目の調査で見つかった迫撃砲の薬莢の中から、海軍陸戦隊の編成表が見つかった。そこに記載されていた兵士の遺族も見つかり、感謝された。2回目調査では2人の遺族が遺骨収容に参加した。観光地として知られている海軍壕で多くの遺骨が見つかったことや、遺留品の遺族が見つかったこと等、地元メディアが毎回報道した。

2カ所の調査に、アメリカ人の他、在沖自衛隊員有志や、県内外の大学生、50人の青年神職、県議会議員、市議会議員、地元協力者や協力団体等がボランティアとして参加した。参加ボランティア数はのべ869人だった。

○活動報告会

年度報告会（6月）、活動報告会（11月）に開催した。北海道支部での活動報告会を検討したが、新型コロナウィルス感染の影響を考慮し、本年度も実施を見送った。

○アメリカ公文書館の資料分析

2021年からアメリカ公文書館のアメリカ軍資料の分析を、会員や KUENTAI USA の会員らと共にしている。沖縄戦の資料を読み、月に数回オンラインミーティングで情報交換をしている。

伊江島の資料に、106人の日本兵が壕で戦死したという記載があり、それについて伊江島の役場に問い合わせた。それを知った地元メディアが先走り報道をして、「106人の日本兵が戦死した壕が特定された」という旨の記事を伝えた。その後、役場や県が厚労省に働きかけ、厚労省が現地を訪問、2023年度に厚労省が試掘をすることになったと伝えられている。空援隊は静観している。

3. 海外での活動

毎年7月に開催しているサイパン合同慰霊祭は新型コロナウィルス感染拡大の影響や、ドル高が続いているため、今年度も開催を見送った。

海外渡航の条件が以前よりも緩和されたため、3年ぶりにサイパンを訪問、空援隊の情報で行われた厚労省の遺骨収容の視察、及び現地協力者らと情報交換を行った。

4. 来年度について

糸満市の野戦病院壕を4月に終わらせ、旧海軍司令部壕の未公開箇所を引き続き調査する。より多くの沖縄県在住者に多く参加してもらうため、協力者や協力団体に参加の呼びかけの協力も得ながら、参加者を募る予定。

海外に関しては、状況を見ながら慎重に判断する。サイパン慰霊祭については、参加予定だった現地キリスト教司祭の予定が合わなかつたことと、ドル高が続いているため見送る。

空援隊 2022年度 調査活動記録

調査回	期間	日数	国(地域)	見つけた数	参加者		概要
					空援隊	ボランティアのべ(空援隊含む)	
140回	3月30日-4月3日	5日間	沖縄本島	-	2	0	2022年4月に実施予定の遺骨収容・調査の事前調整・準備
141回	4月17-27日	11日間	沖縄本島	2袋	5	104	・日米合同の洞窟調査及び遺骨遺留品発掘収容 ・現地協力者達と打合せ、意見交換
142回	6月3-8日	6日間	沖縄本島	-	2	0	・2022年7月に実施予定の遺骨収容・調査の事前調整・準備 ・今後の遺骨収容実施場所の視察と現場確認 ・沖縄における遺骨収容活動の目標と方針の共有
143回	7月3-14日	12日間	沖縄本島	1袋	6	129	・第2回日米合同の洞窟調査及び遺骨遺留品発掘収容 ・現地協力者達と打合せ、意見交換
144回	8月17-25日	9日間	サイパン	-	2	0	・日本政府派遣団の発掘調査の監督及びサポート ・洞窟での遺骨調査 ・現地協力者達への挨拶回り、意見交換
145回	8月30-9月13日	15日間	沖縄本島	1箱	4	116	・第3回日米合同の洞窟調査及び遺骨遺留品発掘収容 ・次回発掘調査場所の試掘調査
146回	10月17-11月1日	16日間	沖縄本島	1箱	8	321	・第1回旧海軍地下司令部壕での遺骨遺留品発掘収容 ・上記調査の事前準備、最終調整 ・現地協力者らと情報交換、打合せ
147回	2023年1月24-30日	7日間	沖縄本島	-	2	0	・第2回旧海軍司令部壕未公開箇所 遺骨発掘・収容の打合せ ・現地協力者や記者らと情報交換 ・加盟団体の理事会 ・調査箇所の視察 ・遺骨収容勉強会(県会議員主催)での講義 ・沖縄で使用する車の受け取り ・映画祭出席
148回	2023年2月16日-28日	13日間	沖縄本島	1箱	10	199	・第2回旧海軍地下司令部壕未公開箇所 遺骨発掘・収容 ・上記調査の事前準備、最終調整 ・現地協力者らと情報交換、打合せ
合計		94日間		3箱と3袋	41	869	

2022年度 活動計算書
2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 空援隊
(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費 受取会費	1,080,000	1,080,000
2. 受取寄附金 受取寄附金	1,576,020	1,576,020
3. 受取助成金 受入助成金 受入補助金	1,000,000 500,000	1,500,000
4. 事業収益 情報調査・遺骨収容事業等による旅費収入	1,722,570	1,722,570
5. その他収益 雑収入 受取利息	13,343 7	13,350
経常収益計		5,891,940
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費 人件費計	0	0
(2) その他経費 調査費 収容費 車両運搬具 その他経費計	999,806 3,851,846 442,910 5,294,562	5,294,562
事業費計		
2. 管理費		
(1) 人件費 人件費計	0	0
(2) その他経費 旅費交通費 通信費 交際費 会議費 消耗品費 租税公課 支払手数料 地代家賃 減価償却費 その他経費計	120,219 99,403 20,403 44,102 27,422 53,450 122,537 132,000 33,220 652,756	652,756
管理費計		
経常費用計		5,947,318
当期経常増減額		-55,378
III 経常外収益		
経常外収益	0	0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用	0	0
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		-55,378
前期繰越正味財産額		-116,074,322
次期繰越正味財産額		-116,129,700

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。※主な事業を記載

(単位:円)

科 目	情報調査・ 遺骨収容事業
I 経常収益	
1. 受取会費	1,080,000
2. 受取寄付金	1,576,020
3. 受取助成金	1,500,000
4. 事業収入	1,722,570
5. その他収益	13,350
経常収益計	5,891,940
II 経常費用 ※事業費のみ	
(1) 人件費	
人件費計	0
(2) その他経費	
調査費	999,806
収集費	3,851,846
車両運搬具	442,910
その他経費計	5,294,562
経常費用計 ※事業費のみ	5,294,562
当期経常増減額 ※ 経常費用は事業費のみ	597,378

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
情報調査・遺骨収容事業	0	1,576,020	1,576,020	0	戦後70年基金

4. 借入金の増減内訳

借入金の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	101,089,957	0	260,000	100,829,957
合計	101,089,957	0	260,000	100,829,957

2022年度 貸借対照表

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人 空援隊
(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	634,988	
立替金	13,038	
流動資産合計		648,026
2. 固定資産		
有形固定資産		
車両運搬具	-33,220	
有形固定資産計	-33,220	
固定資産合計		-33,220
資産合計		614,806
II 負債の部		
流動負債		
短期借入金	100,829,957	
未払い金	10,914,549	
預かり金	5,000,000	
流動負債合計		116,744,506
負債合計		116,744,506
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		
当期正味財産増減額	-116,074,322	
正味財産合計	-55,378	
負債及び正味財産合計		-116,129,700
		614,806

2022年度 財産目録

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人 空援隊
(単位:円)

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
手元現金	36,885
三菱UFJ銀行(京都支店)	342,511
三菱UFJ銀行(西院支店)	135,681
郵便振替口座(右京郵便局)	20,667
郵便振替口座(日本橋郵便局)	1,121
ゆうちょ銀行	63,527
みずほ銀行	2,531
楽天銀行	32,065
立替金	13,038
流動資産合計	648,026
2. 固定資産	
有形固定資産	
車両運搬具	-33,220
有形固定資産合計	-33,220
固定資産合計	-33,220
資産合計	648,026
II 負債の部	
1. 流動負債	
短期借入金	100,829,957
未払い金	10,914,549
預り金	5,000,000
流動負債合計	116,744,506
負債合計	116,744,506
正味財産	-116,129,700

前事業年度の年間役員名簿

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人空援隊

役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	千葉英也		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	報酬無し
専務理事	倉田宇山		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	報酬無し
理事	杉若恵亮		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	報酬無し
監事	谷康平		令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	報酬無し

前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿

令和5年3月31日現在

特定非営利活動法人空援隊

氏名	住所又は居所
千葉英也	
倉田宇山	
杉若恵亮	
江成雅子	
大石宗	
岡田裕作	
茂住彰宏	
飯塚保信	
岡 幸子	
子安一宏	